

BCG ワクチン



対象者: 出生～1 歳になる前日まで

📣 予防できる病気

BCG ワクチンは結核を予防するワクチンです。赤ちゃんは結核に対する抵抗力が弱く、小児では結核性髄膜炎や粟粒結核(ぞくりゅうけっかく)など重症化しやすい傾向があります。

👉 結核性髄膜炎

症状は頭痛、発熱、嘔気、嘔吐、光や音に敏感、項部硬直、対光反射遅延、動眼神経麻痺、意識障害などがあります。現在でも死亡率の高い病気となっており、また治療しても難聴、てんかん、水頭症、神経障害などの後遺症を残す可能性の高い病気です。

👉 粟粒結核とは

症状は発熱、頭痛、咳、痰、息切れ、胸痛、全身倦怠、衰弱などがあり、この病気は肺の結核病巣から大量の結核菌が血液の流れによって全身の組織・臓器にまきちらされ、重い病気を引き起こすこともあります。

生後 1 歳までの BCG ワクチン接種により小児の結核の発症を 52～74%程度、重篤な髄膜炎や全身性の結核に関しては 64～78%程度罹患リスクを減らすことができると報告されています。

** コツホ現象 **

BCG 予防接種は 2005 年 4 月からツベルクリン反応なしで(乳児でのツベルクリン反応陽性者の多くは偽陽性で、BCG 接種の機会を奪うことになってしまっていたため)行われるようになりました。そのため、結核感染を受けた児に BCG 接種をすることがあります。この場合、接種部位の局所反応が早く、また、強く発現します。これをコツホ現象と呼びます。結核感染を受けていない児では一般に 3～4 週間後に接種した針の痕に一致した反応があるのに対し、コツホ現象では 10 日以内、多くは 3～5 日頃に炎症、かさぶた、膿を認めます。接種部位の治療は不要ですが、結核の感染を意味するので精密検査が必要になります。